

文部科学省 GIGAスクール構想の下での 校務の情報化の在り方に関する専門家会議

東京個別指導学院の取り組み

令和4年(2022年)4月26日(火)

株式会社東京個別指導学院

IT戦略室 塚越 隆行

第一事業部 藤田 光

渉外部 石田奈緒子

我々の企業理念

- 我々の活動を理解いただく上で、重要な考えとなる企業理念は以下となります。
東京個別指導学院の社員は、この企業理念のもと活動をしています。

企業理念

やればできるという自信
チャレンジする喜び
夢を持つ事の大切さ

私たちは
この3つの教育理念とホスピタリティを
すべての企業活動の基軸とし
笑顔あふれる「人の未来」に貢献する

東京個別指導学院が実施してきたこと

- 東京個別指導学院ではコロナに端を発した『学びの在り方』について、以下の方針をもとに活動をしてきました。そして今もなお推進しています。

1 学びを止めない

2 安心して勉強するための環境づくり

3 人にしかできないこと以外をシステムへ

1. 学びを止めない

- コロナ禍において通塾できない生徒、受験を控え慎重な行動制限をせざるを得ない生徒、我々東京個別指導学院は、そういった生徒のためにハイブリッド個別指導という考え方を生み出し、学びを止めない活動をしてきました。

ハイブリッド 個別指導

単にオンライン授業を提供するのではなく、対面個別指導とオンライン個別指導を自由に選択することで、生徒たちの環境に応じた学びの継続を実現する。

『その時』、『その生徒にとって』一番安心して学べる環境は何か？

この問いを自らにたて、様々な状況に置かれている生徒に、単なるオンライン授業ではなく対面とオンライン授業を自由に選択することを可能とする、ハイブリッド個別指導サービスの提供を決めました。

2. 安心して勉強するための環境づくり

- ▶ 『学ぶ』ということにおいて生徒が一番に安心する環境は、講師との結び付きであると考えています。オンラインは学ぶために必要な手段であり、生徒が講師との距離を対面と同様に感じてもらうための工夫を考えています。以下は、それら工夫の中の1つとなります。

立ち話

生徒と講師は、必ず授業前に、その日あったことや学校で学んできたこと、悩みなどを気軽に話をする。実はこの時間が、成長するために、講師との信頼関係を深めるために重要な時間である。

オンラインとは単なるコミュニケーション手段の一つではないか？

この問いから、対面のコミュニケーションと変わらない距離感をオンラインでも生徒に感じてもらうことが、講師との距離を縮め、それが生徒の学びの後押しになると考えています。

3. 人にしかできないこと以外をシステムへ①

- そもそも東京個別指導学院では、システム化による業務の効率化を最優先としておりません。個別指導では、【その生徒にとって】を考えると、効率化することができないこともあります。むしろ時間をかけて、その生徒のために【何ができるか】を考える時間が必要となります。
- 東京個別指導学院では、【考える時間】を創出するために、**人にしかできないこと以外をシステム化するという方針**を立てました。

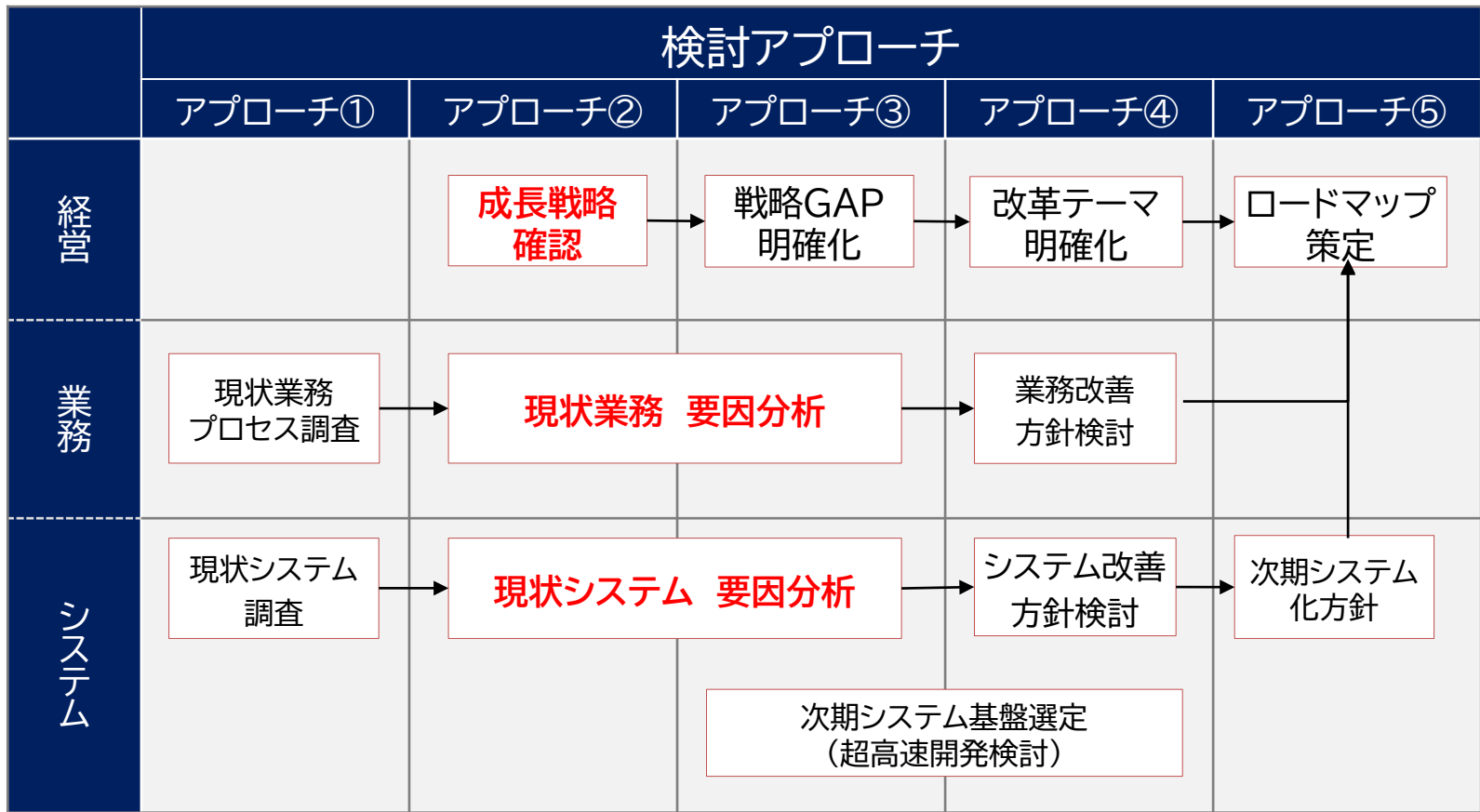


266の教室は、その地域や生徒たちの学びの状況に応じて教室運営をしています。**各教室には各教室のベストプラクティスがあり**、それをそのまま活かしながらDXに向けた基盤システムが必要でしたが、一方で、全教室の運営方法を満たすシステムを構築する時間はありませんでした。

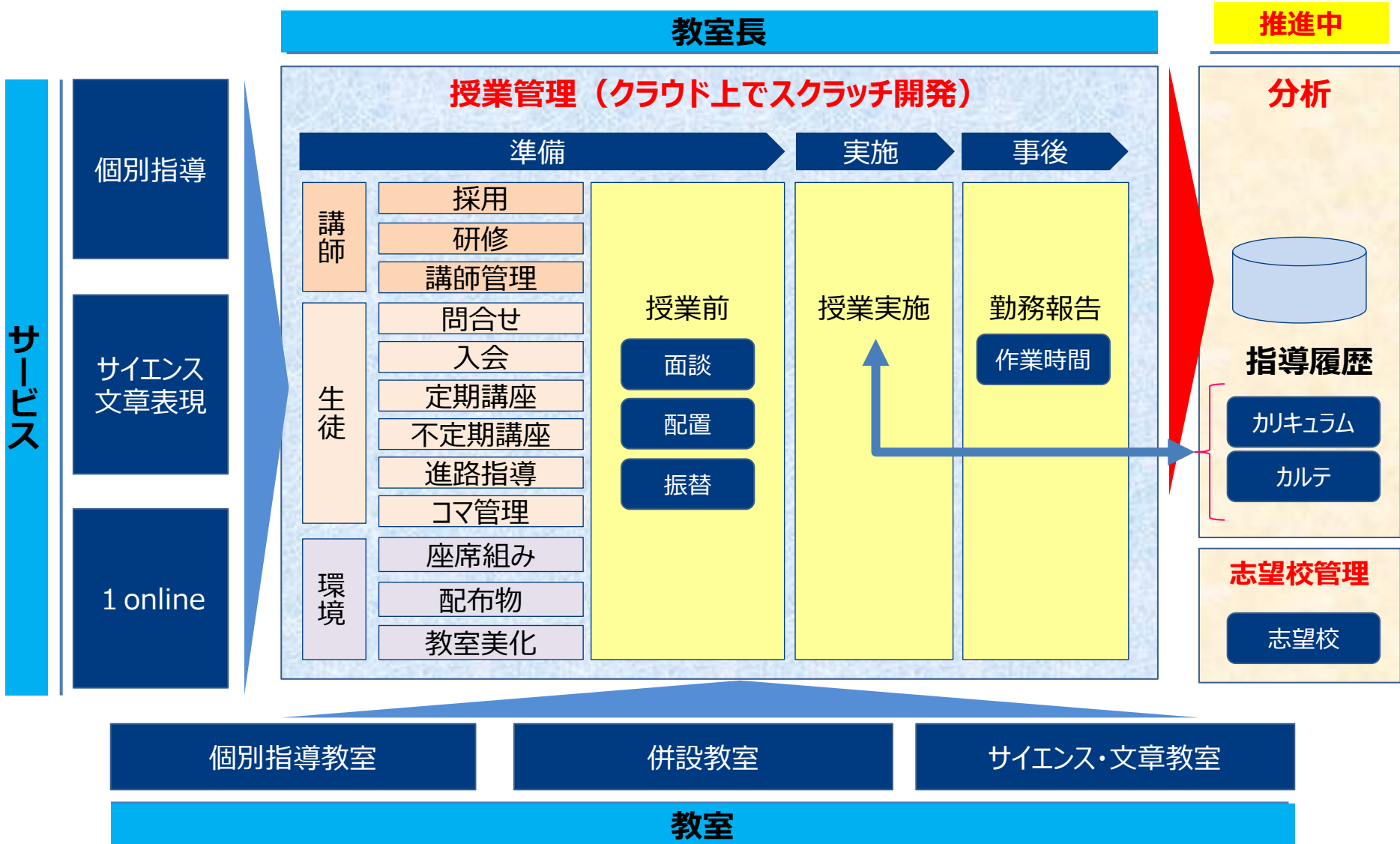
DX推進に向けた新システム構築では、初めから最終ゴールを作るのではなく、35年間で培われてきたノウハウが詰まった前システムの必要最低限の機能を基礎として、導入後に改修が簡単にできるような**拡張性のあるシステム**を構築

3. 人にしかできないこと以外をシステムへ②

- 必要最低限な機能と一言で言っても、どの機能がどうあるべきかを理解しなくてはシステム構築はできないため、以下のアプローチで可視化・企画・計画を行いました。重要なポイントは経営と業務とシステムを一体に考えていることです。



APPENDIX: 教室関連システムの概略



3. 人にしかできないこと以外をシステムへ③

- 徹底的に業務可視化を行い、時間を要している業務は何か？を考察することで、単純に効率化を求めたシステム化ではなく、人が考えるべきところ、考える時間を増やすためのシステム構築を行いました。

課題の抽出観点	課題	スコアリング
		作業時間／年
問合せ～入会業務	入金状況を教室で確認できない	■■■■時間
	入会手続きが非効率	■■■■時間
授業事務業務	配置に時間を要している	■■■■時間
	講習会スケジュールの日程調整に時間を要する	190,000時間
	配置表チェックの運営負荷	■■■■時間
	授業実績の登録方法が複雑	■■■■時間
内部面談事務業務	面談結果の複数登録	■■■■時間
契約変更(顧客)	保護者署名した申請書を生徒経由で回収	■■■■時間
パートナの人事プロセス	講師給与プロセスの作業負荷	■■■■時間
	講師変更情報が未管理	■■■■時間
	本採用前の例外申請	■■■■時間

3. 人にしかできないこと以外をシステムへ④

- あらためて、【講習会スケジュールの日程調整に時間を要する】を分析し、効率化できないpointがあることが明確になりました。



今週は部活で
大会前の練習
で忙しい



仕事の関係で
引越すること
になった



お父さんが出張
で家にいない

生徒たちの学校やご家庭の状況に合わせた配置は、システムだけでは実現は不可能であるということが分かりました。

【その時】【その生徒にとって】【一番良いことは何か？】は、
システムだけでは完結せず、
教室長、講師が生徒を想って考える力こそ、
東京個別指導学院が大切にしているホスピタリティです。



本資料は作成時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が作成したものです。
なお、本資料の著作権を含む一切の知的財産権は当社に帰属いたします。